



テクネ・マクラ「芸術は永し」

# TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 13 号

2019 年 11 月 20 日発行

**News Letter, vol. 13**

University's Historical Resources Unit,  
Joshi University of Art and Design



JOSHI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN



# 佐藤志津没後100年記念式・講演会開催

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



酒井シヅ先生ご講演の様子



佐藤志津像への献花の様子  
左：佐藤泰彦様 右：福下雄二理事長

本学の初代校主、第二代学長を務めた佐藤志津は、大正8年（1919）3月17日67歳で逝去。本年度で没後100年を迎えました。本学では記念事業として平成31年（2019）3月16日、「佐藤志津没後100年記念式」を開催しました。杉並キャンパス内に設置されている佐藤志津像を前に開式し、始めに本学の福下雄二理事長、次に来賓代表として学校法人順天堂 小川秀興理事長、続いて佐藤家代表として佐藤泰彦様よりご挨拶いただきました。その後、佐藤志津像への献花を行い、最後に横山勝樹学長（当時）より閉式のご挨拶がなされました。

続いて第2部として7201教室に場所を移し記念講演会を行いました。酒井シヅ先生（順天堂大学医学部名誉教授・特任教授、日本医学教育歴史館館長）をお迎えし、「女子美・草創期に活躍したひと佐藤志津」を題目としたご講演を賜りました。日本における西洋医学導入の過程で佐藤家が果たした役割、順天堂第三代堂主の佐藤進の活躍、その妻 佐藤志津の生い立ちと功績を、時系列に大変わかりやすく解説していただきました。参加者にとり本学の最大の功労者である佐藤志津への理解が深まった意義深いひと時となりました。

# 佐倉市立美術館 展覧会 「佐藤志津没後100年記念 女子美術大学と佐藤志津展」協力

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



展示会場 写真提供：佐倉市立美術館



佐倉市立美術館（千葉県佐倉市）にて、平成30年（2018）7月7日～8月12日に、展覧会「佐藤志津没後100年記念 女子美術大学と佐藤志津展」が開催されました。

佐倉はかつて幕末の蘭方医であり、佐藤志津の祖父である佐藤泰然が日本初の私立病院・順天堂を興した地であり、佐藤家との縁が深く、その地で佐藤志津の展覧会が開催されたことは意義深いことでした。

展示内容は、5つの章から構成され、1～4章は、佐倉市教育委員会や他機関が所蔵する佐藤家や佐藤志津に関する歴史資料を展示し、志津の生い立ちや活動を紹介しました。貴重な歴史資料の数々が展示され、多角的な視点から人物像を捉えようとする内容でした。

本学歴史資料室所蔵の資料

も出品され、志津が後に初代校主を務めることとなる本学の歴史にも触れながら創立者の横井玉子や藤田文蔵の作品や関係資料も展示されました。

5章では、葦崎大村美術館、本学美術館の所蔵作品を中心に、本学卒業生の作家の絵画・彫刻・立体作品が展示されました。洋画家の三岸節子、甲斐仁代、深沢紅子、森田元子、高須勲子、桜井悦、織田彩子、岡田節子、原光子、溝田コトエ、金山桂子、佐野ぬい。日本画家の片岡球子、三谷十糸子、荘司福、郷倉和子。彫刻家の北川恵子。デザイナーの田辺麗子の作品が出品されました。

＊出品作品・資料の詳細については、展覧会図録『佐藤志津没後100年記念 女子美術大学と佐藤志津展』（佐倉市立美術館、2018年）に掲載されています。



# 展覧会「佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校」開催

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



展示風景

女子美術大学歴史資料展示室では、本学の初代校主・第二代校長を務めた佐藤志津（1851-1919）没後100年を記念した展覧会「創立120周年記念事業 佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校」展を開催しました（2019年3月8日～7月15日）。

私立女子美術学校（現在の女子美術大学・女子美術短期大学部）は、明治33年（1900）にほぼ唯一の女子のための美術学校として創立し、翌年開校しました。しかし、まもなく経営難に陥り、廃校の危機を迎えます。その際、経営に参画し立て直したのが佐藤志津です。

佐藤志津は、幕末の蘭方医で順天堂を興した佐藤泰然の孫として高い教養を身につけ成長し、夫・佐藤進（順天堂第三代堂主）とともに順天堂と佐藤家を支える一方で、さまざまな社会貢献や女性医師の支援を行いました。本学の校主・校長に就任した後は、本郷菊坂校舎の建設、附属高等女学校（現在の女子美術大学付属高等学校・中学校）の創立などの事業を成し遂げ発展させます。

本展覧会開催に際し、佐藤家、学校法人順天堂、公益財団法人日産厚生会佐倉厚生園病院、佐倉市教育委員会、佐倉市行政管理課市史編さん担当、本

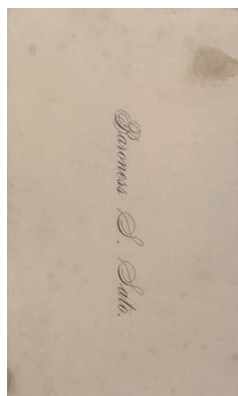
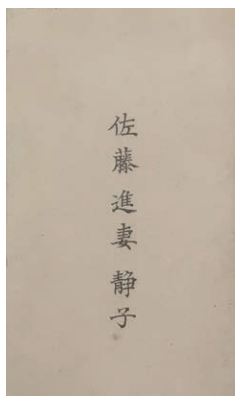
学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻刺繍等（敬称略）の皆様御協力を賜り、貴重な資料を出品することができました。

とりわけ、佐藤志津の名刺（佐倉市教育委員会所蔵）は、所蔵館以外で初公開となり、注目を浴びました。名刺表面には「佐藤進妻 静子」、裏面には「Baroness S. Sato」と記され、男爵で順天堂堂主であった夫・進の妻として鹿鳴館等で国際人として活躍した様子をうかがい知ることができました。

能楽師小鼓方の三須錦吾に習うなど志津の鼓の技量は本格的なものでした。月が美しく浮かぶ夜には、進がうたい、志津が

鼓を打って遊ぶことがあったといわれ、志津が愛用した鼓（順天堂大学・日本医学教育歴史館所蔵）からは、そんな一家の楽しいひと時を想像することができました。

また、進が明治34年（1901）頃に旧佐倉藩主・堀田家の家扶・田村利貞へ送った書簡（公益財団法人日産厚生園病院所蔵・佐倉市寄託）は、堀田家に対し、私立女子美術学校建設の資金援助を求めた内容でした。進が学校運営に直接的に関わるようになるのは、大正6年（1917）初代理事長就任後のことですが、開校当時から志津の後ろ盾となり、資金調達に貢献



佐藤静子（志津）名刺（表・裏） 佐倉市教育委員会蔵



佐藤志津旧蔵 鼓 順天堂大学・日本医学教育歴史館所蔵



初代佐藤志津胸像写真



佐藤志津像原型展示風景 左：乗松巖（名誉教授）制作



右：津田裕子（名誉教授）制作

していたことがわかる貴重な資料を公開することができました。

展覧会後半期には、3体の佐藤志津像についての展示を行いました。

初代佐藤志津胸像は、大正4年（1915）10月に、当時の同窓会の発案で、創立15周年を記念して制作されました。原型を手がけたのは、彫刻家・米原雲海です。この像は第二次世界大戦の際に供出の憂き目にあいます。本展では供出前の写真とともに発起人決議に関する書類を展示しました。

昭和36年（1961）には、再び同窓会により本学創立60周年を記念し佐藤志津像が制作さ

れ、本学に寄贈されました。原型は乗松 巖（名誉教授）が制作しました。杉並校地に設置され、親しまれています。

平成23年（2011）には、創立110周年記念事業の一つとして横井玉子像とともに佐藤志津像が制作され、相模原キャンパスに設置されました。原型を手がけたのは津田裕子（名誉教授）です。本展では、この2体の原型を展示しました。像のディテールなどから制作の様子をリアルに感じていただけたのではないのでしょうか。

以上の作品・資料を含む様々な展示品を来場者の方々にご高覧いただいたことで、本展が佐

藤志津の生涯とその功績を改めて顕彰する機会となったことを幸いに存じます。



\*本展覧会パンフレットは、女子美術大学歴史資料室サイトにて閲覧、ダウンロードができます。<http://www.joshiabi.net/history>

\*一般社団法人女子美術大学同窓会に広報活動の御協力を賜りました。ここに感謝の意を表します。



# 講座「明治150年 津田梅子・佐藤志津に学ぶ～国際社会に向き合う女性たち～」参加

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



オープンディスカッションの様子 写真提供：佐倉市立中央公民館

敬愛大学と佐倉市教育委員会（佐倉市立中央公民館）が主催する敬愛大学出張講座の平成30（2018）年度テーマとして「明治150年 津田梅子・佐藤志津に学ぶ～国際社会に向き合う女性たち～」が掲げられ、津田塾大学とともに本学も参加しま

した。連携した3大学は、いずれも佐倉市と連携協定を結んでいます。

平成30年（2018）12月15日、佐倉市立中央公民館大ホールにて3大学の担当者による講演、オープンディスカッションが開催されました。始めに大類

久恵先生（津田塾大学英文学教授）による講演「現代に生きる津田梅子からの学び」がありました。津田梅子の生涯と女子英学塾（後の津田塾大学）設立、2度の海外留学体験、日本における女子高等教育機関設立の背景にあった日米の女性の連携などについて解説されました。

次に、高橋直子（女子美術大学歴史資料室学芸員）による講演「私立女子美術学校を支えた佐倉出身の偉人 佐藤志津の生涯と功績」があり、佐藤志津の生い立ち、私立女子美術学校での功績、夫・進の海外留学体験の影響、現在本学で行われている社会貢献について紹介しました。

最後に村川庸子先生（敬愛大学国際学部教授）が進行役となり、講演者2名も登壇の上、

オープンディスカッションが行われました。総括として村川先生より「明治の女子教育と佐倉」をテーマとしたお話がありました。津田塾大学・女子美術大学の両校が設立された明治33年（1900）当時の女子の高等専門教育機関の状況、佐倉という地域の国際性、梅子を支えた周囲の人々、現代日本のジェンダー問題などに言及され、プログラムは終了となりました。

質疑応答の場面では、いくつか熱のこもった質問があり、地元の方々の関心の高さを感じました。

\*各講演内容の詳細については、佐倉市教育委員会編『風媒花 佐倉市文化芸術アーカイブ』第32号（2019年7月発行）に掲載されています。



## 2018年12月～2019年9月

## 2018年12月

- 敬愛大学・佐倉市教育委員会主催敬愛大学出張講座「明治150年 津田梅子・佐藤志津に学ぶ～国際社会に向き合う女性たち～」に高橋直子学芸員参加。



## 2019年3月

- 女子美術大学歴史資料展示室にて展覧会「女子美術大学創立120周年記念事業 佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校」(2019年3月8日～7月15日)開催。



- 女子美術大学創立120周年記念事業 佐藤志津没後100年記念式開催。

## 2019年4月

- 平成31年度入学式にて、学校史パネル展示(東京・中野サンプラザ)。



会場写真

- 相模原キャンパス 2号館1階食堂入口脇にてパネル展示「佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校」(2019年4月17日～7月15日)開催。



会場写真

## 2019年5月

- 実践女子大学香雪記念資料館見学。

## 2019年6月

- 埼玉県立新座総合技術高等学校インターンシップ受け入れ。



インターンシップの様子

- 佐倉市教育委員会編『風媒花』第32号(2019年7月発行)のため、佐藤志津画像提供。

- 第2回120周年史編纂部会開催。

## 2019年7月

- 2019年度第1回歴史資料整備委員会開催。

## 2019年9月

- 女子美術大学歴史資料展示室にて展覧会「2019年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」(2019年9月15日～2020年3月12日)開催。



会場写真

- 佐倉市共催事業 市民憲章運動推進全国大会記念DVDのため、写真「佐藤志津」(大正3年)他2件提供。

- 2019年度第2回歴史資料整備委員会開催。

- 第3回120周年史編纂部会開催。

- 全国大学史資料協議会東日本部会創立30周年記念事業 企画展『『新しい大学』の誕生—現在の大学の原点を探る—』のため、昇格記念祭パンフレット他1件貸出、画像5件提供。



News Letter, vol. 13-6

寄贈報告

## 2018年12月～2019年9月

作品・資料をご寄贈いただいた方のお名前を記し、感謝の意を表します。(御寄贈順)

- 森 朝子 1960年代 短大服飾美術科 森妍子先生  
デザイン授業 資料5点
- 楠 秀子 1962～1964年度短大服飾美術科Aコース  
授業ノート2冊
- 定井 毅 『佐藤高等女学校第十三回本科卒業生記念帖』  
(昭和5年3月) 1冊
- 一般社団法人女子美術大学同窓会  
卒業記念品ブローチ《青春》1点
- 佐久間恭子 1970年代～2010年代の短大衣服デザイン教  
室、生活デザイン教室、学部ファッション造  
形学科授業サンプル、教科書他 240点
- 河鍋楠美 『河鍋暁翠作品選』、『河鍋暁斎・暁翠伝』  
各1冊
- 小倉文子 藤田文蔵《基督の一瞥》1点
- 大柳久栄 『暁斎 その魅力ある世界—画稿・下絵集—』  
1冊

News Letter, vol. 13-8

歴史資料整備委員会委員紹介

## 令和元年度 歴史資料整備委員会委員紹介

- |      |       |               |
|------|-------|---------------|
| 委員長  | 原 聖   | (法人参与)        |
| 副委員長 | 広瀬 晴美 | (芸術学部准教授)     |
| 委員   | 八木なごさ | (短期大学部教授)     |
|      | 小川 桂子 | (外部嘱託委員)      |
|      | 谷口 秀子 | (外部嘱託委員)      |
|      | 馬場 章  | (外部嘱託委員)      |
|      | 玉田里佳子 | (事務職員)        |
|      | 内藤 幸江 | (事務職員)〈～9月1日〉 |
|      | 川上 勇  | (事務職員)        |

### 歴史資料の寄贈について

女子美術大学歴史資料室では本学の学校史・教育に係る歴史資料の収集を行っております。収集にご協力いただける場合は、歴史資料室までご連絡ください。ご厚意に沿えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、寄贈いただいた資料の取り扱い、歴史資料室に一任ください。

News Letter, vol. 13-7

表紙写真

## 女子美術学校表玄関

昭和4年(1929)

『女子美術学校第三十三回卒業記念帖』(昭和4年3月)に掲載された本学の正面玄関の写真。当時の校舎は本学2番目の校舎・菊坂校舎であった。明治34年(1901)に開校した際の最初の校舎である弓町校舎(東京市本郷区弓町2丁目)は、明治41年(1908)に火災により校舎の大半が焼失。翌年、校主・校長であった佐藤志津の尽力により、近隣の本郷区菊坂町に校地を構え、新校舎を建設した。正面玄関には佐藤志津胸像が建立された(胸像建立の経緯については本誌5頁参照)。胸像は昭和19年(1944)に供出、菊坂校舎も昭和20年(1945)空襲により全焼し、この風景は失われた。



テクネ・マクラ 「芸術は永し」

# TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第13号

発行日：2019年11月20日

編集・発行：女子美術大学歴史資料室

制作・印刷：株式会社 日相印刷

女子美術大学歴史資料室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学1号館1階

TEL：03-5340-4658 FAX：03-5340-4683

E-mail：heritage@venus.joshihi.jp

URL：http://www.joshihi.net/history/